

【別紙様式 I】 令和7年度 学校評価報告書

学校名 厚木市立北小学校 学校

校長名 鈴木 涼子

厚木市教育委員会の基本目標	1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】 2 自他の命や豊かな感性を大切にし、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】
---------------	---

学校教育目標 友愛 努力 感動 よくあそび よくまなび ともにかがやく	学校経営の方針 インクルーシブな学校の構築 共生社会の担い手を育むため、一人一人を大切にし、すべての児童が共に学び共に育つ学校
---	---

今年度の重点目標	
・教師の積極的な授業改善に基づく、児童の学習意欲のさらなる向上 ・自他の命をみんなで守る、児童の安全意識の向上	

評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
各教科の基礎的・基本的な内容の確実な定着	1	・校内研究や「学力向上プロジェクトシート」で各学年の児童の実態を把握し、児童につけたい力を見極め、教材研究の充実に努めた。 ・学校独自に「九九検定」「漢字検定」「北っ子塾」を設定し、継続して取り組んだ。	・教材研究により、児童が「できた、わかった」と思うことができるような授業を展開することができた。また、必要に応じて個別指導を行うこともできた。 ・漢字検定や再検定では、個に応じた支援や場を工夫して取り組ませたことで、ほとんどの児童が検定合格まで粘り強く取り組むことができた。 ・全学年に、長文読解力に課題がある児童が見られ、その数は少ない。	・さらに児童の「できた、わかった」という実感をもつことができる授業を行うため、引き続き業務を精選し、教職員の教材研究の時間をより確保できるようにする。 ・長文読解力を養うことができるよう意識しながら、日々の授業づくりを行う。
各教科の基礎的・基本的な内容の確実な定着	1	・毎日の宿題及び保護者サインを点検して家庭へ返却することで、家庭との連携を図った。 ・各学年、毎週GIGAスクール端末を持ち帰り、学年の児童の実態に応じた家庭学習に取り組んだ。	・ほぼ全児童が毎日の家庭学習に取り組むことができた。保護者に家庭学習の確認サインをしていただくことで、児童が意欲を継続することができた。一方で、確認サインをもらえない児童が一定数いるため、保護者が把握できていない可能性があり、声かけが必要であると考える。 ・GIGAスクール端末を用いた学習とプリントによる学習を併用することが、児童の学習内容の理解を充実させることに効果的であった。	・懇談会の参加人数が少ないという地域の実態があるため、保護者への啓発については、教育相談、学年だより、配信メールの方が有効であると思われる。機会をとらえ、継続して呼びかけていく。
いじめや問題行動を減少させるための取組	2	・児童アンケートをもとに全児童と個人面談を行い、教育相談で保護者と話し合った。	・児童の悩み事を早期に発見して対応することで、大きなトラブルを未然に防ぐことができた。 ・解決が難しい問題については多くの職員で共有し、児童指導・支援担当・スクールカウンセラーにつなげ組織的に対応した。 ・放課後に地域でのトラブルがみられるため、保護者や地域への協力依頼や放課後の過ごし方などの啓発が必要である。	・学校だよりや運営協議会で、放課後トラブルが起こった際は、学校が保護者同士をつなげ、解決に向かっていくことを周知したため、相談件数が減少した。解決が難しい件についてのみ、学校で聞き取りや指導を行い、保護者の手助けとなるよう努めた。
個々のニーズに応える支援教育の充実	2・3	・支援を必要とする児童に対し、通級指導教室、国際教室、北っ子ルーム等で個別の支援を行った。 ・低学年に学習ボランティアを配置し、学習や生活支援を行った。 ・登校が難しい児童には、主に教頭が窓口となり担任と連携して状況把握と対応にあたった。	・個の課題に応じた指導をしたことにより、児童が安心して学習したり自分を表現したりする姿が見られた。また、複数の教師が関わることで、担任だけでは気付けなかった児童の様子を知ることができ、次の指導に生かすことができた。 ・登校が難しい児童については、電話連絡をしたり家庭訪問をしたりして保護者との関係をつくり、それに基づいてできるだけ環境を整えているが、なかなか登校につながらない場合があった。	・年々、支援を要する児童が増える傾向だが、対応する職員やボランティアを容易に増やすことができないため、十分に支援の手が行き届かない現状がある。引き続き業務を精選し、対応にあたる時間を捻出できるように考えていきたい。

<p>地域の特色を生かした学習や、保護者や地域との交流の積極的な推進</p>	<p>3</p>	<p>・学校運営協議会の協力のもと、「地域協働活動」を立ち上げ、各学年で、毛筆指導やミシン指導、地域探検など、授業で必要な時に必要な人材を募る仕組みを作り上げた。</p>	<p>・地域の方々とのふれあいを通して、地域のみなさんに見守られて自分は生活しているということに気づき、地域に対して愛着をもつことができた。また、地域の人々の思いや努力に気付いたり地域に生きる自分について考えたりすることもできた。</p>	<p>・各教科で時数の確保が難しい中、教科の時数の中でどのように地域に目を向けられるか教材研究をしている。また、単元指導計画と協力していただける人材を引き継ぐことが必要であると考えている。 ・地域協働活動に参画していただける人材をさらに広げ、増やしていく。</p>
--	----------	---	---	--

今年度の学校関係者評価委員会からの意見

昨年度の運営協議会の中で話し合ったことを、今年度具現化した。地域協働推進委員を中心にオープンチャットでボランティアを募り、約40回ほど地域や保護者と連携した活動を行うことができた。来年度、さらにメンバーを増やして活性化させたい。

今年度の学校経営のまとめ・次年度への改善の方針

様々な児童がいる中で『インクルーシブな学校の構築』を目指してきたことで、支援を必要とする児童に組織的に対応する環境を作ることができた。来年度も継続して安心できる居場所づくりに努めていく。また、来年度はモジュールタイムを設定し、基礎学力の定着を目指し、教師が教え方を磨く。働き方改革を進め、今年度以上に教材研究の時間を確保できるようにしていきたい。